

令和8年3月23日

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

兵庫県		
学校名	管理機関名	設置者の別
小林聖心女子学院小学校	学校法人 聖心女子学院	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
小林聖心女子学院小学校	<a href="https://www.oby-sacred-heart.ed.jp/curriculum/">https://www.oby-sacred-heart.ed.jp/curriculum/</a>

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
小林聖心女子学院 小学校	<a href="https://www.oby-sacred-heart.ed.jp/curriculum/">https://www.oby-sacred-heart.ed.jp/curriculum/</a>	<a href="https://www.oby-sacred-heart.ed.jp/topics/2025/05/20358/">https://www.oby-sacred-heart.ed.jp/topics/2025/05/20358/</a>

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

本校の英語科の特色である「スプリット授業」「フォニックス学習」を取り入れ、小学校1年生から週2時間のオーラル学習を実施している。また、1～4年生は朝のモジュールタイムで週3回英語の時間を確保している。さらに、5年生からは週1時間の英語の文法学習が始まり、週3時間の英語に取り組んでいる。文法学習は、小中高一貫教育の利点も活かし、中高と同じ教科書を使用している。英語発表会を保護者会で参観していただく、通知表で英語科として評価結果を示す、1年生は授業参観を実施する、ホームページ（在校生サイト）を活用して取り組みを閲覧できるようにするなどの公表を実施している。

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は、キリスト教の価値観に基づくカトリック校として、世界の一員として連帯感と使命感を持って、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性を育成することを教育理念としている。そのため、一人ひとりの全人格的成長を願い、「魂を育てる」「知性を磨く」「実行力を養う」という方針を大切にしている。自分を大切にしながらも世界に視野を広げ、これからのグローバルな社会を生き抜く資質・能力を養う教育を実践している。

中でも、英語教育においては、国境を越えて他者のために行動できるように、その道具として英語の力を培えるようにカリキュラムを編成している。小学校・中学校・高校の12年間一貫教育である利点を活かして、発達段階に応じた英語教育を実施している。歌やスタンツで自然に英語の土台となる力が身につく小学校1～4年の段階から、英語を使って身近な話題に関する言語活動を行う小学校5年～中学2年の段階を経て、より多様な英語の表現や語彙を学びディベートやディスカッションを取り入れる中学3年～高校3年の段階までの英語の指導を行っている。小学校から学んだ子供たちが中学校・高校に進学して、英語コンテストやコンクールなどで活躍する姿が見られている。また、模擬国連の世界大会に2年連続で選出されている。これらは、小学校からの積み上げがあってこそ為し得ていると中学校・高校へ進学した生徒からの声となって表れている。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

1～4年の段階では、週に2時間の英語学習をしている。ひとクラスを2つの少人数に分けて、ネイティブ教員と日本人教員がそれぞれ指導にあたる「スプリット教育」を取り入れている。この取り組みにより、児童一人ひとりの理解度に応じた丁寧な指導ができ、英語の語彙を覚えるにとどまらず、コミュニケーション力や国際感覚を育てる英語として、本校の小学校英語教育の柱となっている。さらに、音と文字を関連付けた「フォニックス指導」によって「聞く」「話す」英語学習を「読む」「書く」につなげて、より深い理解ができるようにしている。5年生からは週3時間の英語の学習をして、英文法にも取り組む。英語を正確に理解したり発信したりできるように英語の文のきまりに関する学習も開始する。このように、実践的に使える英語力を育むことで、英語を使って人や社会のために役立つ人に育つことを目指している。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

課題としては、より一層のオーラル学習の充実や、身につけた英語を活用することが望まれる。そこで、授業においては実生活を想定した状況で英語を使用する場面を設定するなど英語を活用する機会を増やしている。また、不十分な状況が見られたときに、英語の補習タイムを設定して、より英語が身につくように指導している。小学校5年・6年では、「音読メーター」というアプリを駆使して、家庭学習として繰り返し英語の音読にチャレンジできる機会を設けている。さらに、転入生のための英語補習タイムや、帰国生のための英語保持タイムを設定して、個別に対応できるシステムも構築しているところである。